２．地象の状況

１）地　形

宮島は、広島湾西部に位置する面積約30km^2、周囲約30kmの長方形の島である。長軸の長さは約10km、幅は中央部で約4kmであり、北西側は、せまくて細長い大野瀬戸を挟んで本土の海岸に並行しており、本土との距離は最も狭い中央部で約0.5kmである。

宮島の地形の状況は、図2-2の地形分類図に示すとおりである。

宮島は山地、丘陵地及び低地が分布する。

山地は、その大部分が険しい大起伏山地で宮島の過半を占めており、中起伏山地が島の南西端にわずかに分布している。山麓地は大起伏山地に次いで広い面積を占めており、 南西部の標高 200m 以下に広く分布するほか、 南北・東西系構造谷の周辺にも島内深くまで断片的に分布している。

山地北部に宮島の最高峰である弥山（529.8m）がドーム状にそびえ立ち、その東側の急斜面には崩壊地が多い。南部には岩船岳（466.6m）がある。弥山周辺では標高 400m 付近、300m 付近に狭い山頂緩斜面が、そして標高 100 ～ 200m 付近にかけてかなり広い山腹緩斜面が見られる。

丘陵地は、山地の周囲に分布し、標高200m前後の丘陵が包ケ浦の南と御床浦の東に、標高100m以下の丘陵が島の北端と須屋浦の東に見られる。

低地は、島の各所に分布し、谷底平野、扇状地が見られる。大起伏の山地が背後にあるため、谷の勾配は急であり谷底は狭い。扇状地は背後の山地斜面が急な場合に見られる。東岸の大砂利の扇状地は、直径数 m から 10 数 m の岩塊が見られ、土石流によって形成されたと考えられる。谷底平野の出口は、島の西側では厳島神社に見られるような遠浅の干潟がつくられており、東側では、杉ノ浦、包ケ浦、鷹ノ巣浦のように浜堤と湿地の組み合わせが見られる。

２）地　質

宮島の地質の状況は、図2-3の表層地質図に示すとおりである。

宮島の表層地質は、大部分が花崗岩質岩石であり、そのほとんどが粗粒の黒雲母花崗岩である。急斜面には花崗岩の風化に由来する巨礫や岩屑が発達している地域である。

未固結堆積物である砂・粘土・礫（沖積層）は沿岸部の一部に分布する。

３）土　壌

宮島の土壌は、深層風化した花崗岩を母材とした褐色森林土であり、宮島国有林の土壌型の分布は図 2-4 に示すとおりであり、土壌型の分布割合は表 2-2 のとおりである。

土層が浅く、養分の乏しい乾性褐色森林土（B_A 型土壌）が尾根から中腹にかけて広く分布しており、国有林面積の 94.2%を占めている。この土壌はアカマツ等が生育しているが、成長が悪く、せき悪化している。

谷間に分布する崩積性の未熟土である適潤性褐色森林土－未熟土（B_D-Im 型土壌）が島の東南側及び南側の沢沿いに分布し、国有林面積の 0.2%を占めるにすぎない。地形的に水分条件がやや良好な島の西南側及び東部側の沢沿いには適潤性褐色森林土（B_D 型土壌）が分布しており、国有林面積の 6.3%を占めている。これらの土壌はアカマツ等の生育が良好である。

また、山腹斜面上 B_D 型土壌より上部に適潤性褐色森林土（偏乾亜型）（$B_{D(d)}$ 型土壌）が分布し、島の西南側及び東南側中央部の山腹斜面に出現しており、国有林面積の 0.2%を占めている。この土壌はアカマツ等の生育が良好な部類に入る。

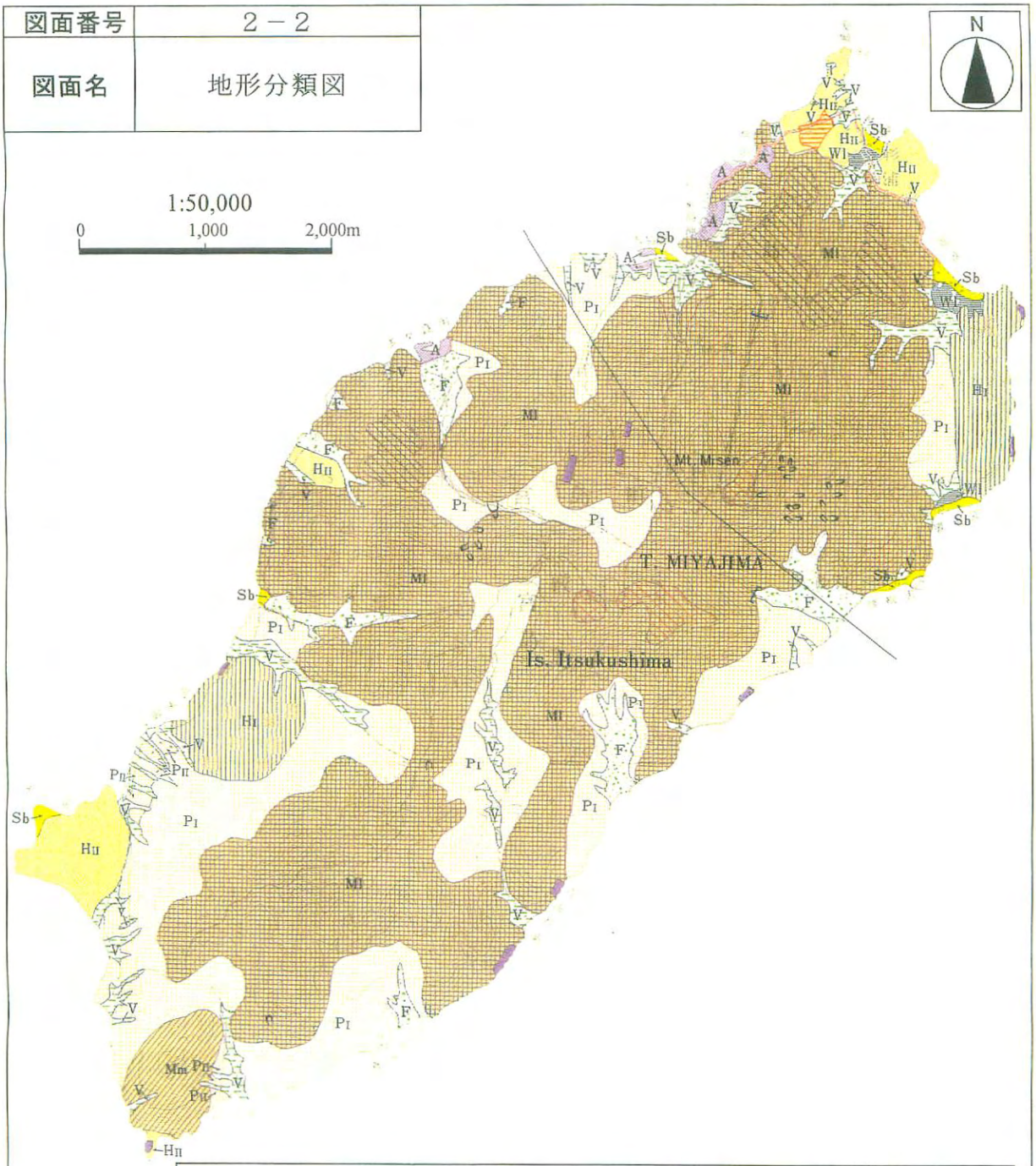
表 2-2　土壌型の分布割合一覧

土壌型	B_A	$B_{D(d)}$	B_D	B_D-Im	国有林計
面 積(ha)	2,181.70	5.49	148.18	4.74	2340.11
分布率(%)	94.2	0.2	6.3	0.2	100.0

注）林野庁所管国有林の林地について掲載

出典：「太田川森林計画区第 1 次国有林野施業実施計画森林調査簿」
（近畿中国森林管理局、平成 11 年）

図面番号	2－2
図面名	地形分類図



凡　例

記号	区分		記号	区分	
Ml	大起伏山地	山地	A	干拓地・埋立地	低地
Mm	中起伏山地		Sb	砂州	
PI	山麓地Ⅰ			崖	
PII	山麓地Ⅱ		Wl	湿地	
HI	丘陵地Ⅰ	丘陵地		山頂緩斜面	その他
HII	丘陵地Ⅱ			山腹緩斜面	
V	谷底平野	低地		崩壊地形	
F	扇状地				

出典：「土地分類基本調査図」（広島県、昭和 54 年）